

(前 ページ☆よりつづく)

おまけに、テーブルに並べられた料理は、“園芸福祉にいがた”の仲間の方々が精魂込めて作った野菜の郷土料理の数々でした。

これで食指が止まるわけではないのです。

ほろほろ気分で、終宴をはっきり記憶していない状況でした。交流会の初めに、久住時男見附市長の挨拶があり、「日本のオンリーワンのまち」を目指す市政の考え方を聞きました。◎安全安心なまち ◎教育を大切にすまち ◎日本一健康なまちの次に ◎景観を大切にすまちがあって、この政策を推進する要点として、園芸福祉の思想が込められているのです。日常に花や緑を育て快適な環境をつくること、すなわち、これが健康な市民を育てる人づくりの政策につながる、と説明がありました。

事実、ある小学校の花いっぱいコンクールでは総理大臣賞などの受賞もあるようです。

市政の中に園芸福祉の思想が込められていることに感銘を受けて、宴席の久住市長の席に伺ってお話を聞きましたが、本気で我らの現市長に聞かせたい話でした。そしてわが元市長とは懇意の仲だということまで分かり、よいみやげ話までついできました。

余談、久住市長と私が話しているのが、まるで兄弟同志のようだったと、誰かがいっていました。

「追記」古賀市でシンポジウムの報告をしましたところ、みんなで視察に行こうという話が出て、今準備中です。日にちは来年5月連休あとで、2泊3日程の旅行です。少々費用がかかるので早くスケジュールして預金してもらおう段取りです。

もし希望者があれば考慮しますが、まだ決定ではありませんので、念のため。



青崎 安孝

園芸福祉全国自慢こき大会で発表

全国の園芸福祉の仲間が、各地での活動を発表する「園芸福祉全国自慢こき大会」で、園芸福祉ふくおかネットを代表して、山崎博子代表が「園芸福祉の庭での10年の歩み」についてを。そして私、黒瀬恵子が「北九州高等学園での外部講師」について「自慢こき」をしました。

各地を代表してミネートされた10名の発表者は、資料やスライド、ポスターなどは一切使用することはできず、5分間のスピーチのみ、というやや厳しい条件で、自分達の活動の素晴らしさを壇上に立ちアピールしなければなりません。

発表者は、会場内の参加者から、活動の内容や理解度、発表時間などを採点され、高得点順に表彰される仕組みになっていました。発表時間わずか5分、そして発表者を表彰するスタイルは、平成22年に園芸福祉ふくおかネットが福岡で開催したシンポジウムの時に、みんなで考え出したものでした。レベルアップされた「自慢こき」大会で、私は福岡県特別支援学校「北九州高等学園」での外部講師活動を通して、分かりやすい指導方法を考え出すことは、知的障がいがあるからではなく、なくても同じことだ、ということに気づかされ、体験を通して改めて園芸福祉を実感し、そのことが他の活動の中にも生かされていることを発表しました。さて、採点の結果は、幸運にも2位に選ばれ、賞品として地元で作られたステキな紳士用のセーターをいただき、いつも園芸福祉活動に理解ある主人へのお土産にさせていただきます。関係者の皆さま、お陰様でとても意義ある楽しいシンポジウムでした。

ありがとうございました。



黒瀬 恵子

総会とシンポジウムに参加して

2013年6月21日、新潟県長岡市で日本園芸福祉普及協会の総会&「第12回園芸福祉シンポジウムながおか」が開催されました。福岡から7名が参加、飛行機の遅れのため新幹線に間に合わずレンタカーで総会に何とか間に合うというハプニング付きでした。

今回の総会で九州選出の谷口博隆理事が2期4年の任期を終え退任、黒瀬恵子さんが新理事に就任されました。

シンポジウムは、北は北海道から南は沖縄まで126名の参加で活気あるものでした。各地の特徴ある活動を報告する「自慢こき大会」では10名が発表。福岡からは黒瀬恵子さんが北九州高等学園での職業教育外部講師として取り組んだ3年間の活動を、わたくし山崎は「園芸福祉の庭」での活動を発表しました。

制限時間5分、スライドやポスターなどは使用せずにお話だけの発表です。会場のみなさんが採点をして順位がきまります。1位は、702.0点を獲得した静岡の野中富美子さん、そして2位は698.5点で園芸福祉ふくおかネットの副代表(事務局)の黒瀬恵子さんです。帰福後に活動の参考にしたいのでと次のようなメールが届きました。一部を紹介します。

「北九州学園さんへの外部講師の取組み、とても参考になるなと思いました。理解しやすいことばを選び、取り組むことは私も大切だと感じています。

お話の中で、苔玉作りの様子が印象に残りました。そこで、もしできるのであれば、苔玉の講師をなさった時の準備や作り方のレシピを見せていただけないでしょうか？」園芸福祉ふくおかネット設立当初から取り組んできた「こけ玉作り」、試行錯誤しながら作り上げた現在のノウハウを、全国の皆様と共有できることを誇りに感じました。

ワークショップでは「地域コミュニティ」「高齢者」「子ども」「障がい者」の4つのグループに分かれ、各人が自己紹介や活動内容を紹介していると、あっという間に時間が過ぎてしまいました。各地で頑張っている方々の生の声を聞くことが出来、とても参考になりました。

山崎 博子

「園芸福祉シンポジウムながおか」

に参加して

第12回「園芸福祉シンポジウムながおか」に参加してきました。福岡県以外での参加は初めてでしたし北信越地方にも行ったことがなかったのでとても楽しみにしていました。そして、何より全国の園芸福祉士との交流と情報交換がしたかったのが参加した理由でした。私は「障がい者」のワークショップに参加しました。初めは、ながおかのスタッフの方も初めての進行、司会ということで、とても緊張して周りで励ましやアドバイスをしながらのスタートとなりました。まずは、グループ内での自己紹介と活動をそれぞれ話しました。私は、北九州高等学園での「古新聞とセメントで作るエコ鉢」の取り組みを紹介しました。ほとんどの方が「初めて聞きました」や「へー」「いいね」などとても興味・関心を持っていただきました。時間が押していた関係もあり意見をまとめたり深めたりするところまで話し合いの時間がなかったのが残念でしたが沢山の取り組みを聞いたことはとても良かったです。ワークショップの中で一番印象に残った言葉は「現在、健常者、高齢者、障がい者、生活弱者の垣根がまだ高く、それぞれが活動している。私たち園芸福祉士がコーディネーターの役割を担って活動していく必要がある。そして、行政を巻き込んで、三位一体で取り組んでいける体制作りや仕組みを構築していきましょう」ということでワークショップを終了しました。その後の交流会では地元の郷土料理や新潟県の地酒に舌鼓と楽しい会話でとても盛り上がった交流となりました。翌日の視察研修会で一番印象に残ったことは、前日のワークショップで話し合った三位一体の活動を実践している長岡市一之貝地区のUNEHAUS(ウネハウス)の取り組みです。元市議の家老さんが中山間地域で過疎地域の住民、高齢者、障がい者、青少年、生活弱者の活性化を目指して活動していました。前日に話し合ったことだったのでとても感銘を受けました。福岡に帰って来て、新潟県長岡市、柏崎市、見附市、岐阜県、瑞浪市、広島県三次市の方に「エコ鉢」の詳しい資料を送付し、後にお礼のお手紙やメールをいただきました。「是非、今度、作ってみます」などのご返事に嬉しく思いました。来年度の開催場所はまだ未定と聞いていますが開催のときは、是非また、参加したいと思っています。そのためには「資金の積み立てをしよう」と決心したところで、今回の私の報告とさせていただきます。

辻 和広

事務局からのお知らせ

会員のみなさまへ逸早い情報をお伝えするために、あなたのメールアドレスの登録をお願いします。

携帯、パソコンから、件名のところにご自分のお名前だけ書いて事務局宛に送信していただければ結構です。

また、事務局からのメールは、BCCで一斉配信しておりますので、返信メールの時は、お名前も一緒にご連絡頂けると嬉しいです。

園芸福祉ふくおかネット事務局(黒瀬)
アドレスは、

engeifukusi.fukuoka@hya.bbiq.jp

黒瀬(携帯 090-8626-1586)

■ グリッピーキャンペーン2013

★ テーマ

「ひろげよう そだてよう みどりの都市」
(全国都市緑化月間と共通テーマ)

★ 日時 平成25年10月19日(土)・20日(日)
10:00~16:00

★ 場所 天神中央公園・アクロス福岡

※ 園芸福祉ふくおかネットは、福岡市都市緑化推進行事実行委員会委員として、グリッピーキャンペーンに参加しています。

今年度は、

- ハンギングバスケットの展示
- 種アート(タネでお絵描き)
- みどりのミニプランコ(新企画)

を予定しています。

「園芸福祉シンポジウムながおか」での 視察研修

2日目(22日)園芸福祉活動視察研修に、私たちは8時30分すぎバスで出発。

- 1、長岡市緑花センター「花テラス」
- 2、見附市イングリッシュガーデン
- 3、見附市立病院の園芸福祉の庭
- 4、地域活動支援センター「ウネハウス」

の4か所を視察しました。

「花テラス」は花づくりを通して学び交流の場になっています。種から花苗を育てられています。

一年中花づくり体験のできる市民参加の施設です。

屋上庭園もあり、花壇面積は850㎡、土づくり機・発芽室・育苗温室など充実した施設にびっくり。

次は見附市のイングリッシュガーデン、入園料は無料でしたが募金箱が園中にあるそうです。

花の管理は市民ボランティアの方々が主に行っており、自給500円を市の方から出しているそうです。

ガーデンにはいろいろな花が咲き目を楽しませてくれました。バスを走らせ、自然一杯の山道を見附市一之貝にあるウネハウスへ。UNE(ウネ)は「U」ユニバーサル、「N」農園芸、「E」越後の頭文字をとって命名されたそうです。ここで昼食をおなか一杯いただきました。地域の方々の手作り料理とてもおいしかったですよ。とても充実した視察研修でした。ありがとうございました。

皆さんも色々な交流の出来る場へ参加し、いろいろな方と出会いませんか。

栗木 トシ子



■ グリッピーキャンペーン2013

♪ タネ、集めてまーす ♪

昨年とても好評でした「タネでお絵描き」を今年もやります。たくさんの種類のタネがあつまると多彩な絵が出来ることでしょう。花・野菜・果物・雑草の種を身近なところで集めてください。十分乾燥させてから担当の沖本さんに届けてください。



<昨年の様子>

長岡の花火

九州人の私にとっては、東北地方は地理的に遠く知らないことも多いため比較的関心度も薄かったのですが、長岡で園芸福祉全国大会があるのでこの際行って見ようとおもいました。空から見る新緑の信濃川周辺の整備された田んぼの広さ、米どころの緑は、以前初めてイギリス上空で見たグリーンと同じような新鮮さを感じました。

会場になる長岡市役所アオーレ長岡は、市民ホールと行政が一か所に集約されており、雪国での生活の知恵だなと思いました。のちにこの場所は長岡城のあった場所だったと知りました。思い切り城跡に交通機関の駅舎を作り市民の活用施設にした大胆さに驚かされました。このような例は他都市ではないのではないかと思います。しかし長岡のことを調べる過程でなるほどと理解できるようになりました。

アオーレ長岡の中に日本三大花火である「長岡の花火」を紹介するシアターがあります。ここで映し出される大スクリーンでの迫力はたぶん本物に近いものがあり、ドーンとおなかに響く音と色鮮やかな花火のショーはすごく印象に残りました。

その時の説明では、1945年8月1日の大空襲で亡くなられた1470人の慰霊、復興に尽力した先人への感謝、恒久平和への願いが込められているとのことでした。

自然災害、戦災、このことを忘れないように毎年夏の夜空を染める花火の美しさを感じながらかみしめる。すごい教育啓蒙だと感じました。福岡に帰り司馬遼太郎の「峠」を求め、長岡藩の家老河井継之助のことを知り、あの花火は河井継之助の平和を願いつつ説を曲げて戦わねばならなかった悔しさを長岡の人達がかみしめているのではないかと思います。長岡の花火は日本3大花火の中でも1番古く1879年(明治12年)長岡の遊郭の人たちがお金を出しあって350発の花火を打ち上げたそうで、河井継之助の死去は1968年(明治元年)8月16日なので明治維新で官軍と戦った時の戦死者は309人だつそうで、それに巻き込まれた一般人も多く明治維新が落ち着いた12年後市民が自発的にお金を出し合い花火を上げることで明治維新で犠牲になった人たちの魂を慰霊したことが裏に隠されていることを察知しました。それから花火は市民の出資で上げられ続けているようで、長岡の花火はそこいらの花火と違う、奥の深いものがあります。いつか本物を味わいに行く機会を作りたいものです。

(この花火大会は、インターネットで「長岡まつり大花火大会」を「検索」して、お楽しみ下さい)

角銅 久美子

新潟県長岡市の雪国植物園を訪ねて

一日目、第12回園芸福祉シンポジウムながおかは、第1部が園芸福祉全国自慢こき大会、第2部のワークショップが終わって、全員外に移動し「ようこそアオーレ長岡へ」の大きな映像をバックに記念写真撮影。再び会場に戻るとそこは、交流会(しゃべっちょ大会)の会場に変身、久住見附市長のお話を伺い、沢山の心のこもった手作りの郷土料理とそれを一段と引き立てる新潟の銘酒を楽しい会話と共に美味しく戴き、笑顔と共に有意義な時間を過ごすことが出来た。二日目は視察研修、長岡緑花センター花テラス、イングリッシュガーデン、見附市民病院花壇を見学した後昼食は、一之貝地区というところに古民家を活動の拠点としているウネ(UNE)ハウスへ。ここでも地産の素材を生かした手作りの料理を戴いた。長岡の皆様の細やかな温かいおもてなしにおなかも心も満腹に。つい食べたことばかり書いてしまったが、お心遣いがありがたく、猛暑を乗り切った今でも印象深く思い出している。視察から戻り家老氏にご案内いただき「栃尾てまり」などご当地のお土産を夫々が買い求めた。長岡といえばここを見なければということで、河井継之助記念館と山本五十六記念館を見学に。園芸福祉ふくおかネットの会員は学習意欲が旺盛。心地よく疲れてホテルに戻り、三日目はどこを観ようと皆で思案しているとき「雪国植物園」のパンフレットを見つけた。

九州人としては「雪国」という文字や歌などに何かしら惹かれるものがある。雪国植物園は、令終会「大正5年設立、意味は人生の終わりを全うする。翌6年趣意書に、人生の終わりを全うせしむるに自己の財産を善用し、末を誤ることなかれと訴え、10万円を集め、建設完了後長岡市に寄贈。この時代に市民による市民のためのまちづくりが長岡にあった」とホームページにある。(次ページにつづく)

(前ページからつづく)



高山植物、外来植物、園芸植物、海浜の植物を一切入れずに次なる世代のために自然の植生に重きをおいて、人が優しく自然に近づくべきで、自然を無理に人間に引き寄せるべきではない点を最重要視したものとなった。ともある。雪国植物園には250種類余りの花々が咲くとのこと、どんな景観のところか観てみたいと意見が一致して訪ねることにした。レンタカー2台を駆って一路雪国植物園へ、東口駐車場で降りて管理棟で利用料を払い（ここは雪国の里山にあるためか今年は3月20日開園、11月17日閉園とある）門をくぐり園内に足を踏み入るとそこは別天地、ゆっくりと周りを見回し散策をはじめた。明るい林相の園路沿いには豊かな自然の植生が広がり、心が和む。一行7名を迎えてくれたのは、露に濡れた青紫色の花が美しいエゾアジサイ、幻想的な安らぎの景観を構成していてなんとも心地よい。葉のつき方が面白いクガイソウの花が少しの風に揺れる。陽光を浴び青く輝くノハナショーブの群生。髪をなびかせダンスを楽しんでいるようなオカトラノオの花。歩を進めるごとに夫々の知識や思いの中から植物名や特性などの解説も、ときどき感嘆の声が湧いたり、笑ったり、心豊かな嬉しい時が流れる。シモツケやノハナショーブなど美しい花々と笑顔を記念写真に収める。路傍に咲く小さな花を覗き込んだり、樹上の花を見上げるなどしながらの散策を終え、無料御休所で水分補給としばし休憩。この時期は2週間に亘り「ホタルの夕べ」と題してイベントも行われているとのこと。「よかったねー」、「もっとゆっくり観たかったねー」の声を残し、雪国植物園に別れを告げ、帰路についた。

(参考資料：雪国植物園HPほか関連情報)

谷口 博隆



写真の説明

上左：表示板・なるほどと心に残る、表現が旨い！
 上右：谷あい一帯に咲くノハナショーブ
 中左：かろやかに踊っているようなオカトラノオ
 中右：葉がおもしろいクガイソウが風に揺れる
 右：雪国植物園の空気とみどり、花々の織り成す素晴らしい景観を楽しんだ一行

しゃべっちょ大会で、お話した見附市今町で創業120年の老舗「泊菓子舗」の4代目鶴頭さんから思いもかけず銘菓「凧もなか」が届いた。350年前から続く6月の見附市×長岡市中之島大凧合戦に由来したお菓子。上品な甘さでとっても美味しかった。



“園芸福祉の庭”から
(アイランドシティ(IC)中央公園、作業報告)

本号から「園芸福祉の庭」の状況をお知らせする。ということでこのコラムをはじめました。

この庭の管理活動は、2005年の第22回全国都市緑化フェアに先駆けて開始しました。公園の基本区画として設計されていたので、福岡市と管理契約を締結し、フェア終了後一年間の公園化工事の最中も休まず「園芸福祉ふくおかネット」がその花壇部分を継続管理させてもらっています。

さて、8月末の定例活動は、ご承知の通り的大雨で中止としました。しかしながら福岡市内は異常気象のせいで7月は1mmの雨量もなくカラカラで、7月末の活動までは何とか持ちこたえたようでしたが、8月中旬は写真のようにクリーピングタイムもチリチリで悲惨な状況でした。そんな中マツバボタンはいつものように健気にがんばってくれ、夏の彩りを一手に背負ってくれていました。

思いがけないことに6月に補植したばかりのアサギリソウがしっかり成長していたのには驚きましたが、4年近く育てていたアジュガが全滅したのがとても残念です。

補植したギボウシも全滅でした。公園などこまめな対応が出来ないところでは陰性植物にもっと気を使うべきでした。激烈な環境に耐え切れなかった植物たちに合掌…。

※ 花壇管理の作業に多くの皆様のご参加をお待ちしております。

園芸福祉の庭の写真



写真の説明

上左：めげない！松葉ボタンとポーチュラカの混植・8月
上中：元気だった頃の「高齢者と楽しむ花壇」・6月
上右： 枯れた「タイムの絨毯」と萎れたセージ・8月
左： 消えてしまったアジュガ・8月

“園芸福祉の庭”担当：西川直喜

■ グリップキャンペーン2013会場に展示するハンギングバスケットを作ります。

- ☆ 日時 平成25年9月29日13時から
- ☆ 場所 アイランドシティ中央公園 ぐりんぐりん北ブロック
- ☆ 講師 黒瀬 恵子
- ☆ 持ってくるもの

- ・ハンギングバスケットの容器(去年の制作講座で使ったもの)
- ・スリットのスポンジが破れている場合は、張り替えてお持ちください。
- ・エレガンス用の替えスポンジは園芸店やホームセンターで販売しています。(容器に各自名前を記入)
- ・出来上がった作品を持ち帰れるよう、パートナーや箱、フックやひもなどは、各自ご持参ください。

- ☆ 参加費は無料です。
花苗や用土、水苔などは、こちらで準備します。



(イメージ)

今後の体験講座のご案内

- ※ 11月24日(日) リースづくり
お正月に飾る、赤米を使ったリースを作ります。
講師: 栗木トシ子
- ※ 2014年1月26日(日) 苔山づくり
エコ皿の上に苔を貼り付けたおしゃれな山が出来上がります。
講師: 井上妙子

◆ あなたも活動紹介をしませんか？

- ◎個人やグループ、学校、施設、地域などで行っている園芸活動をお知らせください。
- ◎メールやお手紙に写真を添えてお送りください。

- 送り先/〒810-0033 福岡市中央区小笹1-9-25

園芸福祉ふくおかネット事務局 黒瀬 恵子 宛
Eメール/engeifukusi.fukuoka@hya.bbq.jp



■ アイランドシティ中央公園 ■

「園芸福祉の庭」定例会のお知らせ
毎月・最終日曜日10時から除草や花の植栽
など庭の手入れ作業をしています。

会員紹介

今回は、沖本 圓さん（福岡市早良区在住）をご紹介します。

園芸福祉ふくおかネットの皆さま、来る2014年の創立10周年おめでとうございます。

2005年の「第22回全国都市緑化ふくおかフェア」と「NPO法人園芸福祉普及協会全国大会inふくおか」から8年が経ちました。15年前に母を、8年前に父を送り天涯孤独の身になった年でもあり、そんな時に皆さんに出会い、翌年メンバーに加えていただきました。皆様の沢山の助けをいただき、いま生活できているのは奇跡のようです。心よりお礼申し上げます。去年還暦を迎え、今までの失敗を糧に新たな一歩から創めることにしました。

来月のグリップキャンペーンでは、園芸福祉ふくおかネットの出展ブースで「種アート」の企画を担当することになりました。見本作品や資料作りに取り組んでいます。次に繋がるような夢と希望を持って、皆さんと一緒に楽しく活動していきたいと願っています。（と、沖本さんからコメントを頂きましたので、原文のまま掲載。）



「福岡市NPOボランティア交流センター「あすみん」」でのアルバイトも5年目を迎え、後半年で終了です。

去年の10月に春吉小学校の還暦同窓会で、当時の児童会長で同窓会の世話人である中島氏が撮影してくれた還暦記念写真です。



NPO法人グラウンドワーク福岡と古荘浩士さんのNPO法人緑のキャラバン隊のメンバーとして、視覚特別支援学校のハーブガーデンで管理やイベントのお手伝いを続けています。



2013年9月11日(つい最近です。)今宿の畑にて。米倉治美さん主催の野菜クラブの活動。トラクターで耕しているところは、私が無農薬有機野菜を作る予定の場所です。



● 園芸福祉ふくおかネット事務局 ●

- TEL 090-8626-1586(黒瀬)
- E-mail engeifukusi.fukuoka@hya.bbq.jp
- 〒810-0033 福岡市中央区小笹1-9-25
- ネット通信 花便り 編集者 谷口 博隆